

平成 30 年度

事業報告書

公益財団法人板橋区文化・国際交流財団

## I 全体概要

平成30年度も板橋区文化・国際交流財団は、文化の香り高いまちづくりに寄与するため、地域文化の創造支援と国際相互理解を促進する様々な公益目的事業\*を実施しました。

このことにより財団は、板橋区が定める「文化芸術振興基本計画」及び「多文化共生まちづくり推進計画」を推進する一翼を着実に担いました。また、昨年に続いて持続可能な財団の財務運営を行うため事務事業と財務の見直しに取り組みました。

\*公益目的事業：公益に関する事業であって、多数の者の利益の増進に寄与するもの。（公益法人認定法）

### 1 事業の概要

文化事業では、①心豊かな区民生活の実現とまちの個性と魅力を高める、②区民主体の文化芸術を振興する、③区の文化芸術の特性・資源を活かすことを目標として、区民参加型事業、アウトリーチ事業、文化の提供事業等を行いました。その結果、参加者を増やすなど区民の好評と支持を得て、文化振興を図ることができました。さらに、文化庁の公共ホール経営の研修に参加し職員の職務能力の向上にも取り組みました。

国際交流事業では、①コミュニケーション支援、②多文化共生のための人づくり、③人々が交流し全ての人の人権を尊重する安全なまちづくりへの寄与を目標に事業を実施しました。友好都市提携の周年記念事業の該当はありませんでしたが、国際理解教育や日本語教室運営の改革など事業の充実を図っています。

実施事業数は66で前年度と同数、参加者数は15,820人で前年より1,548人増加、入場者数は60,866人で前年比△9,013人となりました。減少要因は、文化事業の共催公演と姉妹都市周年事業であり、その他の事業では、参加者数、入場者数とも順調に増加しました。

・事業数、参加者数等の推移

(増減は、29, 30年度比較)

年度	文化事業			国際交流事業			合計		
	事業数	参加者数	入場者数	事業数	参加者数	入場者数	事業数	参加者数	入場者数
28	43	12,480	54,180	23	1,761	9,154	66	14,241	63,334
29	45	11,980	66,496	21	2,292	3,383	66	14,272	69,879
30	45	12,759	60,396	21	3,061	470	66	15,820	60,866
増減	±0	779	△6,100	±0	769	△2,913	±0	1,548	△9,013

### 2 収支の概要

財団の経常収支は、総収入額102,812千円、総支出額が94,131千円、当期経常増減額8,681千円となりました。対前年決算比では、総収入額4,885千円の増、総支出額5,997千円の増、当期経常増減額△1,112千円減となり、昨年に続き大きな黒字となり翌年度に繰越しました。

経常収支の内、公益目的事業会計の収入額は81,739千円、支出額は83,558千円、当期経常増減額は、△1,819千円の赤字となりました。これは、収支相償の観点より平成28年度の黒字相当額の消費を求められていたことから、文化事業支出額を前年より9,120千円増やして事業を拡大したことなどによるものです。

経常経費の内、法人会計の収入額は21,073千円、支出額は10,573千円、当期経常増減額は10,500千円となりました。これは、経営計画2021において指定管理を受託していく方針が示されたため、そのための組織強化を含めた準備費用として、区の補助金を法人会計に厚く充てて繰越金としたためです。

この繰越金は、財団組織の強化と文化公演等で発生する赤字を補てんする費用に充てていきます。

・経常収支の推移

(千円)

年度	総収入	総支出	経常増減額 (千円)	収入率
28	101,761	100,344	1,417	101.4%
<b>29</b>	<b>97,927</b>	<b>88,134</b>	<b>9,793</b>	<b>111.1%</b>
<b>30</b>	<b>102,812</b>	<b>94,131</b>	<b>8,681</b>	<b>109.2%</b>
増減	4,885	5,997	△1,112	△1.9P

・平成30年度経常収支の内訳

(千円)

	公益目的事業会計	法人会計	合計 (千円)
収入	81,739	21,073	102,812
支出	83,558	10,573	94,131
経常増減額	△1,819	10,500	8,681

## II 各事業の実施状況

### 1 文化事業

#### (1) 区民参加型事業

区民主体の活動支援、文化芸術へのいざない、次世代や担い手の育成、発表の機会の提供を図るため区民参加型事業を行いました。

・区民参加型事業の推移

年度	事業数	参加者数	入場者数	収入 (千円)	支出 (千円)	差引 (千円)	収入率
28	11	1,940	9,684	12,517	20,205	△7,688	62.0%
<b>29</b>	<b>13</b>	<b>2,213</b>	<b>10,404</b>	<b>14,019</b>	<b>23,414</b>	<b>△9,395</b>	<b>59.9%</b>
<b>30</b>	<b>12</b>	<b>2,260</b>	<b>10,913</b>	<b>15,188</b>	<b>25,274</b>	<b>△10,086</b>	<b>60.1%</b>
増減	△1	47	509	1,169	1,860	△691	0.2P

次の各事業を行ったことにより参加者数・入場者数、収入ともに増加させて区民主体の板橋らしい文化事業の充実を図りました。

#### 【次世代の育成】

- ・就学前の子供を対象とした和太鼓講習会、小学生を対象としたチアリーディング、バレエ体験講習会を行いました。
- ・小中学生を中心とする青少年吹奏楽教室は、年間を通じた練習と発表会を行いました。参加者数も増加し、楽器の更新も行いました。
- ・小中学生を対象とする区民参加型ミュージカルは劇団の指導により、13回の練習と公演を行い参加者数、観客数ともに増やしています。

#### 【区民の文化活動の発表の場】

- ・ふれあいステージは、熟年世代のハワイアンや子供世代のモダンダンス等の多様な参加団体の活動成果の発表の場となっており、記録DVDの配付も好評です。

#### 【区民主体の質の高い音楽文化の振興】

- ・板橋区混声合唱団、板橋区吹奏楽団は定期公演等と年間を通じた活動により観客数も順調に増加しており区民の支持を得ています。
- ・第九演奏会は、区民合唱団がプロオーケストラと共演し、参加者数、観客数とも大ホールを一杯にして区民主体の板橋らしい公演になっています。

#### 【区民オペラの振興】

- ・区民がオペラ公演に参加するためのオペラ合唱団の区民文化講座を行いました。

#### 【新進演奏家支援】

- ・クラシックオーディションと合格者コンサートをを行いました。コンサートを無料で日曜日に行った結果、観客を増やしています。また、ロビーコンサートへの演奏機会も設けて若手演奏家の演奏機会を提供しました。

#### 【短歌、俳句、川柳の振興】

- ・区民文芸の振興のため区民投稿と選評を年6回行っています。

## (2) アウトリーチ事業

アウトリーチ事業として、小学校等への出前公演と区施設でのロビーコンサートを行っています。

出前公演は、身近で本格的な文化芸術に親しみ、潤いや楽しむ機会とするため小学校や福祉施設へ弦楽四重奏、管楽器演奏、落語、混声合唱団、大道芸による出前を行い、入場者数を増やしました。さらに、地域にも文化芸術を普及するため、法人会地域支部と連携した出前公演も開催しました。

ロビーコンサートは、文化芸術の薫りを広げて、文化芸術にいざなうために、区役所、赤塚支所等において演奏を行いました。季節感のある演奏や稀少楽器など多彩な演奏を行い、区民に喜ばれ定着してきました。

・アウトリーチの推移

年度	音楽演奏会		落語		大道芸		混声合唱		ロビーコンサート		合計	
	回数	入場者数	回数	入場者数	回数	入場者数	回数	入場者数	回数	入場者数	回数	入場者数
28	6	950	3	240	2	238	0	0	12	1,780	23	3,208
29	9	1,683	5	691	2	205	4	155	12	2,655	32	5,389
30	10	2,465	6	867	3	401	2	112	12	2,129	33	5,974
増減	1	782	1	176	1	196	△2	△43	±0	△526	1	585

(3) 文化の提供事業（主催公演事業）

低廉な料金で気軽に文化芸術を鑑賞し、心を豊かにする機会を提供するため、文化の提供事業(主催公演)を行いました。

・主催公演の推移

年度	事業数	入場者数	収入（千円）	支出（千円）	差引（千円）	収入率
28	8	8,306	22,600	28,425	△5,825	79.5%
29	4	5,308	12,845	11,043	1,802	116.3%
30	6	6,266	21,560	17,334	4,226	124.4%
増減	2	958	8,715	6,291	2,424	8.1P

平成 29 年度の主催公演事業は 1,802 千円の黒字となっていましたので、平成 30 年度は、収支相償の観点から昨年より事業数、支出額ともに増やして下記的主催公演を行いました。対象となる観客を明確にして質の高い公演の開催に努めた結果入場者を増加させました。支出が増えた以上に入場料収入が伸びて収入額は 21,560 千円となり、収入率は過去最高の 124.4%となりました。

【「落語のまち板橋」の特性と資源を活かす】

- ・板橋落語会は、区内在住の演者により年 3 回行い区民に定着しています。
- ・板橋名人寄席は、落語 4 派の共演など 2 公演を行い 1 月公演は満員となりました。

【次世代育成と子育て支援】

- ・ファミリーを対象として、質の高い劇団四季ミュージカルとサンリオファミリーミュージカルを行いました。

【一般、熟年世代を元気にする公演】

- ・世界的なレジェンド穂吉敏子による米寿ジャズコンサートを行い、好評を得ました。
- ・代表的なフォークシンガーである南こうせつコンサートを行い、区外からも集客して大ホールを満員としました。

#### (4) 文化の提供事業（共催事業）

区内の文化芸術の担い手が行う公演の支援・普及、区民が良質な公演を低廉な料金で鑑賞する機会の提供、区や教育委員会と連携した文化芸術の振興を行うため様々な共催公演を行いました。

・共催公演の推移

年度	事業数	参加者数	入場者数	収入（千円）	支出（千円）	差引（千円）	収入率
28	17	10,540	34,590	1,645	1,398	247	117.7%
29	19	9,767	44,619	2,925	1,416	1,509	206.6%
30	16	10,499	36,596	888	1,870	△982	47.5%
増減	△3	732	△8,023	△2,037	454	△2,491	△159.1P

平成30年度の入場者数は、前年度に行った商業公演でもある子供向けコンサートや隔年実施の公演がなかったため減っていますが、次の共催公演を行って参加者を増やしつつ文化芸術の振興を図りました。

##### 【区内最大の文化芸術活動の祭典】

・区民主体の最大の文化祭典である区民文化祭を共催し26団体の公演等を行いました。

##### 【区や教育委員会と共催】

・中学校連合学芸大会、音楽祭ジュニア、i-youthダンスフェスタ、武者行列、板橋の芸能を共催し、青少年の健全育成と伝統芸能の継承を図りました。

・金沢市都市交流10周年事業としてジュニア交流フェスタを拡大開催しました。

##### 【地域貢献団体との共催】

・わんぱく相撲、音楽の絵本コンサートを共催しました。

##### 【芸術文化の普及に寄与する公演】

・童謡祭、歌声コンサート、陸上自衛隊コンサートを共催しました。

・熟年世代の観客参加型の、歌って健康！歌声コンサートを年6回行いました。

##### 【区内で活動する演奏家支援と普及】

・演奏家協会のクラシック音楽演奏会は、区民合唱団も参加したオペラ公演やクラシックのファミリーコンサートなど3公演を共催し支援をしました。

・松原勝也ヴァイオリンリサイタルを行い、板橋区出身者による国内有数の質の高い演奏会を共催し、クラシックの普及の機会としました。

##### 【地域の演劇団体公演の支援】

・シェークスピアを中心とした板橋演劇センターの3公演を共催しました。

・バリアフリー観劇サポートを工夫している劇団ファンハウス公演を共催しました。

・劇団銅鑼の公演は開催されませんでした。

### (5) 助成・顕彰事業

区民の文化芸術・スポーツ活動を支援し振興するため、助成と顕彰を行いました。

#### ・顕彰等の推移

年度	種別	助成事業			顕彰事業			
		文化部門	スポーツ部門	支出(千円)	文化部門	スポーツ部門	国際交流部門	支出(千円)
28	個人	-	1件	267	9人	52人	-	1,593
	団体	2件	1件		4団体	7団体	-	
29	個人	-	1件	10	11人	54人	-	1,370
	団体	-	-		2団体	9団体	1団体	
30	個人	-	2件	192	12人	47人	-	1,303
	団体	1件	2件		2団体	8団体	2団体	

### (6) 広報活動等

財団の文化芸術情報の発信のため、文化会館の公演情報や国際交流事業等を掲載した情報誌「ふれあい」を発行し、新聞折込や駅置き等により配付しました。また、財団と指定管理者の公演情報を統一的に編集して見やすい誌面にしたほか、国際交流事業や地域の文化芸術活動情報も掲載して広報を行いました。

さらに、区民の利便性を高めるチケット販売店を地域に確保するほか、SNSやフェイスブック広告も活用したきめ細かな情報発信に努めました。

#### ・広報活動の推移

年度	ふれあい発行部数	チケット販売店数	広告収入(千円)	支出(千円)	差引(千円)	収入率
28	147,000部	8店	979	10,634	△9,655	9.2%
29	147,000部	8店	973	11,230	△10,257	8.7%
30	147,000部	8店	898	10,652	△9,754	8.4%
増減	±0部	±0店	△75	△578	503	△0.3P

## 2 国際交流事業

### (1) 国際交流事業

多文化共生の人づくり、コミュニケーション支援を目標として、ボランティアと協力して、次の11事業を行って参加者を増やすなど国際交流・理解を推進しました。

- ・国際交流事業の推移

年度	事業数	参加者数	入場者数	収入 (千円)	支出 (千円)	差引 (千円)	収入率
28	11	1,619	390	1,553	3,967	△2,414	39.1%
29	10	2,100	220	1,336	3,401	△2,065	39.3%
30	11	3,018	270	1,493	4,131	△2,638	36.1%
増減	1	918	50	157	730	573	△3.2P

#### 【コミュニケーション支援】

- ・日本語教室、日本語教師養成講座を行いました。日本語教室では従来からのカリキュラムや学習方法の変更のための検討会や準備研修をアドバイザーも加えて行いました。

さらに、大学が行う日本語教育研修へ参加する職員への助成や、文化庁の日本語教育コーディネーター研修にボランティア教師を派遣するなど人材育成に努めました。

- ・日本語スピーチ大会は、ボランティアや地域の日本語学校の協力を得て12か国から出場者があり多くの人の交流と理解の場になりました。合わせて、外国人の日本舞踊発表も行いました。

- ・外国人おもてなし語学ボランティアに対して、修了者向けセミナーを東京都と共催してフォローアップを行いました。

#### 【国際交流・理解、多文化紹介】

- ・国際理解教育では在日外国人にJICAの講師を加えて質量ともに充実を図りました。

- ・ホストファミリーの経験者を増やすため留学生ホームビジット事業を区民文化祭での日本伝統芸能鑑賞と合わせて行いました。

- ・多文化紹介では、甲骨文字、豆腐作り、ネパール文化紹介、外国人ための日本舞踊講座等の体験型の事業を行い好評でした。

- ・ボランティア委員会によりフィリピン料理教室とブラジルサンバを楽しむ会のほか、毎月の国際交流サロンを行いました。

#### 【生活支援】

- ・弁護士、行政書士、税理士等を集めた専門家相談会と毎月の法律相談を行いました。

- ・災害時の避難所対応を学ぶ防災語学ボランティア養成講座を行ったほか、区、大学と共催で留学生防災訓練を共催しました。

## (2) 姉妹友好都市提携に基づく事業

区の姉妹・友好都市であるモンゴル国、バーリントン市、石景山区等との交流事業を区と連携して行いました。平成30年度は友好交流都市の周年記念の該当がないため事業規模を縮小していますが、バーリントン市小学校の作品交流、モンゴル相撲大会の共催、石景山区写真展、花火大会の茶席などにより交流を維持継続しています。

・友好都市提携事業推移

年度	事業数	参加者数	入場者数	収入(千円)	支出(千円)	差引(千円)	収入率
28	6	142	8,764	0	3,116	△3,116	0.0%
29	5	192	3,163	115	2,281	△2,166	5.0%
30	4	43	200	0	319	△319	0.0%
増減	△1	△149	△2,963	△115	△1,962	△1,847	△5.0P

## (3) 育成、援助等

区民による国際理解や国際交流活動を支援するため、日本語教室等を行う地域団体を助成しました。

・育成、援助の推移

年度	日本語教室	国際交流事業	支出(千円)
28	7件	3件	514
29	6件	3件	715
30	6件	2件	595

## (4) 広報活動等

外国人に開かれた住みよいまちにするため、行政サービスや国際交流イベントの情報誌「アイシェフ・ボード」を4か国語(ルビ付日本語・英語・中国語・韓国語)で毎月3,000部発行しました。そのほか区役所ロビーで多文化共生のパネル展示や情報誌「ふれあい」によって多文化共生に向けた情報発信を行いました。

## 3 区からの受託事業

行政サービスを多言語で案内するリーフレットや転入外国人向け情報誌「Welcome to いたばし」を作成したほか、申請書の翻訳や区役所窓口での通訳を行い、外国人が円滑に行政サービスを受けられるように支援しました。

・受託事業の推移

年度	通訳件数	翻訳件数	合計(件)
28	120	106	226
29	92	113	205
30	96	90	186
増減	4	△23	△19

### Ⅲ 経営計画の財務状況見込み

「経営計画 2018」の最終年度となる平成 30 年度決算は、計画を大きく上回る財務改善と事業の充実を実現することができました。その結果、期末残高見込額は 56,879 千円となっています。今後も、平成 31 年 2 月に新たに策定した「経営計画 2021」に基づき、持続可能な財務運営と効果的な事業運営を推進していきます。

・「経営計画 2018」の期末残高状況

金額(千円)

年度	収入	支出	収支差	期末残高	※経営計画 期末残高見込
27 決算	116,933	134,767	△17,834	36,989	32,413
28 決算	101,761	100,344	1,417	38,405	23,698
29 決算	97,927	88,134	9,793	48,198	19,098
<b>30 予算</b>	<b>98,927</b>	<b>99,966</b>	<b>△1,039</b>	<b>47,159</b>	<b>16,498</b>
<b>30 決算</b>	<b>102,812</b>	<b>94,131</b>	<b>8,681</b>	<b>56,879</b>	

※ 期末残高見込は、当初の「経営計画 2018」の金額に、目的外使用が承認されている「交流都市周年事業積立資金」の金額を加えたものとなっています。

・「経営計画 2021」の期末残高見通し

金額(千円)

年度	収入	支出	収支差	経営計画 期末残高見込
31 年度 (令和元年度)	100,677	115,787	△15,110	39,102
32 年度 (令和 2 年度)	108,452	107,300	1,152	40,254
33 年度 (令和 3 年度)	99,900	98,800	1,100	41,354